



日野
多摩
稲城

地区保護司会だより

第72号

稲城市立学校給食共同調理場第一調理場



稲城分区長（副会長）就任のごあいさつ

稲城分区長 松浦 昇



令和5年4月から稲城分区の分区長を務めさせて頂いております。保護司に委嘱されて14年目になります。会員の皆様のご支援とご協力を頂きながら、微力ながら精一杯分

区活動に取り組んで行く覚悟ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度は新型コロナウイルス感染症が収束に向かい、本来の保護司活動を再開しました。7月3日に実施した「第73回社会を明るくする運動」は、中学生や各種団体等22団体の皆様にご参加を頂きました。市内6駅頭及び平尾バス停の計7か所、又、ジャイアンツ球場や各地区夏祭り、盆踊り会場等で啓発グッズのウェットティッシュを配布し社明運動を盛り上げました。併せて、中学校には作文コンテストの応募を呼びかけ犯罪予防啓発活動にご協力を頂きました。

全国の保護司会では、今後、保護司の高齢化による退任保護司の増加、保護司適任者確保の困難性等により保護司制度への危機感が問われております。

稲城分区におきましては、引き続き、保護司候補者検討協議会や会員・諸団体からの推薦等で新任保護司を発掘して行きたいと考えております。保護司は健康で活動力を有していること等4つの条件が揃えば、法務大臣から非常勤の国家公務員として委嘱されます。熱意を持って犯罪や非行をした人達の立ち直りを支える人が必要です。又、保護司活動も時代と共に社会状況や生活・地域環境の変化により活動維持が難しくなってきております。今後、保護司の負担軽減等を図りつつ罪を犯した人や非行のある少年の改善更生を助け、犯罪や非行の防止と立ち直り支援活動を実施して行きたいと考えております。

今後とも会員・関係団体の方々のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

法務大臣表彰を受彰して



日野分区 松本 ちづ子

この度、法務大臣表彰という栄えある賞に浴することができ、身に余る光栄でございます。

優しい気持ちで人の話を聞くことはできるかもしれないと保護司をお引き受けしたものの当初は不安でいっぱいでした。すぐに少年を担当することになり、力がないなどと考えている場合ではなく、保護観察官のご指導を受けながら少年と、そのご家族と向き合い、精一杯頑張ったことが思い出されます。

サポートセンターでは、開設後、人と人との繋がりの大切さを一番にサポートセンターに関

わり、多くのことを学ばせていただきました。

保護司の拝命を受けましてから22年、保護司として世の中でお役に立っているかとの思いを常に抱き、悩むこともありましたが、このような私が長い間、保護司を続けていられますのも、温かく励ましてくださいました諸先輩をはじめ地区保護司会の皆様方のおかげと心から感謝申し上げます。

これからも初心を忘れず、この受賞に恥じないよう身を引き締めて、頑張っていきたいと思えます。



令和5年度 東京都更生保護事業 顕彰者のご紹介

令和5年11月28日に、「浅草公会堂」において、東京都保護司会連合会創立70周年記念東京更生保護大会が開催されました。

清興、開会のことば、物故者への黙とう、国歌斉唱、天皇陛下のおことば奉読、式辞、あいさつと続き、令和5年度東京都更生保護事業関係者の顕彰が行われました。その後被顕彰者謝辞、祝辞、来賓紹介、祝電披露、大会宣言があり、次回開催地区である八王子地区保護司会の前田善一郎会長からのあいさつ、最後に手締めにより閉会となりました。

また、令和5年12月8日には、「ホテルエミシア東京立川」において、令和5年度多摩地区保護司会連絡協議会主催の受彰祝賀会が開催さ

れました。日野・多摩・稲城地区保護司会では、松本ちづ子保護司（法務大臣表彰）が紹介され、地区ごとに写真撮影が行われました。

<令和5年度被顕彰者>

法務大臣表彰
松本ちづ子
全国保護司連盟理事長表彰
三枝 玲子 西川 毅
関東地方更生保護委員会委員長表彰
川久保和壽 持田 幸子 飯島 文彦 内山 晃次 廣澤 伸幸
関東地方保護司連盟会長表彰
出沼恵美子
東京保護観察所長表彰
熊谷 弘 庚塚 克子 井上 裕由
東京都保護司会連合会会長表彰
尾又 孝行 関 裕子 佐藤 和子 中村マコト 檜崎 嘉子
全国保護司連盟理事長表彰（家族功労）
土方 圭子（土方 三男の妻）



令和6年 「新春の集い」開催

令和6年1月11日（木）木曾路 多摩ニュータウン店にて、来賓11名、名誉会員7名、保護司43名の出席で開催されました。

第1部の式典では、開会のことばを大須賀良子副会長が述べ、日野・多摩・稲城地区保護司会土方三男会長より新春の挨拶を申し上げました。

続いて、ご来賓の東京保護観察所立川支部土公千鶴支部長、大坪冬彦日野市長、高橋勝浩稲城市長の皆様からご祝辞をいただきました。そして、来賓、名誉会員の方々のご紹介をいたしました。



その後、令和5年度の被顕彰者の披露があり、被顕彰者を代表して、法務大臣表彰を受けた松本ちづ子保護司より謝意が述べられ、第1部の式典を終了いたしました。

休憩の後、第2部の懇親会が始まり、公務のため第2部に駆けつけていただいた阿部裕行多摩市長からご祝辞をいただきました。

次に多摩地区保護司会連絡協議会前田善一郎会長と日野・多摩・稲城地区更生保護女性会関戸良会長からご挨拶をいただきました。

そして当地区桐友会佐伯進会長から乾杯のご発声があり、第2部懇親会がにぎやかに始まりました。

会食の途中、令和5年5月並びに9月に委嘱された新任保護司の紹介を行い、多摩分区の北野勝保護司から自己紹介がなされました。

余興では、初めての試みとして、くじ引きが行われ、鉢花や和・洋菓子が景品として配られ、全員に記念品が渡されました。

最後に、松浦昇副会長が閉会のことばを述べ、その後、分区毎の記念集合写真の撮影を行い、お開きとなりました。

参加者全員の満面の笑みが印象に残った、「2024年新春の集い」でした。

日野・多摩・稲城地区 桐友会報告

日野・多摩・稲城地区桐友会会長 佐伯 進



日野・多摩・稲城地区支部は、保護司を卒業した会員19人で組織しています。

本会の主たる目的は、第一に、会員の親睦交流と情報交換を深めること、第二は、地区保護司会と連携を図りつつ側面から協力を行うことです。

毎年行っている活動の主なものは、定期総会・懇親会の開催であります。来賓として地区保護司会の会長・総務部長のご出席を頂いております。

この日は会員が一年に一度、一同に会する機会でもあり、総会議題の審議はもとより、親睦と交流を深める最大の場であります。

残念なことは、東京桐友会が毎年開催してきた「会員の集い」が会場の確保のこと等から開催されないことです。

地区保護司会との関連としては、「社会を明るくする運動」の啓発事業への参加と、保護司候補者検討協議会への参加です。

令和5年度「社会を明るくする運動」 作文コンテスト受賞者と協力者感謝状受表彰者の紹介

作文コンテスト受賞者

【佳作】

日野市立三沢中学校 2年
盛島 薫『人と人との繋がり』

【奨励賞】

日野市立潤徳小学校 日野市立三沢中学校
多摩市立落合中学校 多摩市立諏訪中学校
多摩市立青陵中学校 多摩市立多摩中学校
多摩市立多摩永山中学校 多摩市立鶴牧中学校
稲城市立稲城第四中学校

協力者に対する感謝状受表彰者

【東京都推進委員会委員長感謝状】

多摩防火女性クラブ 多摩稲城交通安全女性会
真 明 寺

【東京保護観察所長感謝状】

高西寺 多摩市青少年問題協議会東寺方地区委員会

目野分区 活動報告

視察研修に参加して

10月19日～20日 コロナ禍が開けて初めての視察研修先(11名参加)は、静岡県にある駿府学園を訪れました。思い起こせば保護司に任命されて、数年後に研修に来た記憶を少しずつ思い出しました。

駿府学園は今年9月の台風で建物の1階部分に汚泥が流れ込み、大変な労力が費やされて綺麗になったそうです。

建物自体も令和3年に改修工事が完了したとの事で、在院者が暮らす部屋は、個室が多くそれぞれベッドが置かれており、トイレや洗面所等に自由に行けるとの事でした。もちろんその棟の入り口は錠錠がされていますが、これまで私が視察してきた施設の中では一番、近代的で今の時代(若者)に沿った印象がありました。



施設見学の前に、刑務官から少年院の概要と駿府学園の現状説明を伺いました。

現在の収容人数が18名であることや、最大60名収容が可能であるとの事でした。

施設内見学の後、質疑応答では色々な質問が出ましたが、なかでも一日の食費を尋ねると一人520円の予算だそうです。お米は別であるとの事でしたが、パンや麺になると予算の中からの支出になるとのことでした。畑で採れたナスや大根も食事に使われることも伺えました。

高卒認定試験も受けられるとの事でしたが、短期処遇のため、申し込みと受験日がある様に入らなくて、受けることが出来ないこともある様でした。罪を犯した少年たちは、ここで規則正しい生活をして社会に戻っていきます。説明をしてくださった刑務官の言葉の端々に少年たちに向けた厳しくも温かい言葉も印象に残りました。

稲城・多摩の保護司会の方々にも「是非、駿府学園にお越し頂きたい」とのご伝言がございました。

研修後は、親睦を深め今回の視察研修は実り多き秋となりました。(報告：水野 京子)

多摩少年院視察研修報告

12月12日 参加者：13名

多摩少年院院長 池田一氏のご挨拶から山崎講師、小門講師による説明を頂きました。

多摩分区 活動報告

11月1日～2日視察研修

11月1日～2日 多摩分区の視察研修は秋晴れの中15名の参加で実施しました。

1日目は「赤城少年院」を訪れ院の歴史や役割の説明を受け、施設内を見学。施設はどこも温かみがあり、少年たちの学びの成果や刻まれた言葉など、展示物一つ一つに彼らのおかれていた状況や思いが見えてきて心を打たれました。2日目は渋澤栄一記念館、旧渋沢邸「中の家」を見学し、充実した視察研修と会員相互の親睦を深めることができた2日間でした。(報告：幹事 降矢 英文)



12月5日年末懇親会

聖蹟桜ヶ丘駅前の会場にて、日野・多摩・稲城地区更生保護女性会関戸良会長をはじめ、日頃お世話になっている更女の皆様とともに、「多摩分区年末懇親会」を開催いたしました。川井博之分区長の挨拶の後、令和5年度表彰を受けた方を代表して秋の叙勲を受けられました紀初子さんから授賞式の思い出話をいただくなどスピーチがあり、分区会員一同が一年を振り返りました。27名の参加者それぞれで話が弾み、有意義な懇親の場となりました。

(報告：幹事 加藤 晃章)

令和6年2月20日 第3回多摩市社会を明るくする運動社明作文コンテスト表彰式

今年度も多摩市永山公民館ベルブホールで社明作文コンテスト表彰式を行いました。阿部市長をはじめ、千葉教育長、日野・多摩・稲城地区更生保護女性会会長、同多摩副分区長、多摩市立中学校校長、関係者の皆様をお迎えして開催しました。

当日は寄せられた713作品の中で、最優秀賞1名、優秀賞9名の方が多摩市推進委員長の阿部市長より表彰されました。

又、今年度より新たに、日野・多摩・稲城地区更生保護女性会多摩分区長賞も新設いたしました。

作文コンテストを通して、生徒の皆さんに更生保護活動への理解が広がる事を期待します。皆様のご協力に感謝いたします。

(報告：分区長 川井 博之)

稲城分区 活動報告

稲城分区の本年度の活動は年4回の分区会・臨時会と自主研修・処遇研修を其々実施しております。社明運動関係から活動が始まります。9月には観察官、市長、副市長、担当課職員、保護司、そして保護司家族の方々が先輩保護司宅に集合し恒例の懇親会を開催しました。日頃から皆さんと充分に交流する時間が取れない中、この日は先輩、後輩、村度なしの親睦会で、皆さんとの和気藹々とした楽しい時間はお互いを理解し、その後の活動に多いに役立っております。10月は本年度、第6ブロック保護司組織運営連絡協議会当番地区になり担当となった保護司は貴重な体験をすることが出来ました。その後の保護観察活動に良い効果が出てきております。11月には「笑う刑務所」で有名な横浜刑務



所を視察見学しました。幕府の開国と同時に伊豆下田に作られた奉行所管轄の囚獄をルーツとしており、26

歳以下の犯罪傾向の進んだ男性受刑者収容施設で、B級、F級を収容し、敷地面積85,382㎡、定員1225名の大規模刑務所です。刑務作業の一環として製麺作業が有名でキャピック製品のうどん・パスタ、他に石鹼も地域の方々には人気があります。また、職業訓練により資格を取得させ就労支援による社会復帰に取り組んでいます。施設見学後活発な質疑応答が行われ、有意義な横浜刑務所の視察研修でした。12月には保護司、市長、担当課職員が一同に集まり一年間の労をねぎらう懇親会をよみうりランド内レストランで開催し、仲間と親睦を深めました。

稲城分区は普段から保護司同士が意気投合し団結力が強く難題に直面しても保護司全員の問題として捉え適切な解決を見出しております。年間をとおして学校、地域との交流活動には多くの保護司が参加し、稲城市全体の犯罪予防と更生活動に努めております。

サポートセンター 「懇談会」の報告

「相談できる環境づくり」を目的として、令和元年度から始まったサポートセンター「懇談会」が、12月7日約3年振りに地区会員20人の参加により開催されました。経験の少ない5年未満の保護司と10年以上の経験を持つベテラン保護司との懇談会として企画されました。

はじめに参加会員全員の自己紹介があり、続いて、事前に17人からいただいたアンケートの内容説明が行われました。新任保護司の困っていること、ベテラン保護司が新任の頃困っていたこと・どのように対策したかなど幾つか、生の声で発表されました。

全体懇談では、新任保護司の苦戦しているケースが題材となり、ベテラン保護司から具体的なアドバイスが多数発言され、新任保護司の皆さんが多くを学ぶ機会となりました。最後に3つのグループに分かれた懇談が和やかに行われ閉会となりました。今後も、保護司の誰もが直面する課題を共有し、意見交換ができる有意義な場となるよう企画していきたいと考えています。



保護司 一言リレー

稲城分区 唐木 洋子



私は、退職後に、書道の勉強を始めました。指導をして下さった先生が、「漢字」や「かな」だけではなく、両方の混じった『詩文書』の書き方で、展覧会への作品制作をしていました。其れを見て、私も書いてみたいと思い、直ぐに指導を仰ぎました。幸いにも一回目の作品提出の展覧会に入選しました。その後は「創玄展」や「毎日展」の展覧会において秀逸や佳作・秀作の賞を頂き、それが大きな励みとなりました。現在も楽しく筆を持って書いており、本日まで続けております。私は、書道では邪道かもしれませんが、実は、横書きの作品制作をしております。(イラスト 中村マコト)

令和5年度 専門部の活動

研修部

部長 飯島 文彦

1. 地域別定例研修の実施

- 第Ⅰ期「生活環境の調整について」
- 第Ⅱ期「更生保護法の一部改正について」
- 第Ⅲ期「面接について」

昨年度と同様、観察官をお迎えし、対面で受講しました。保護司の必須研修ですが、今年度も受講率100%を達成できませんでした。

2. 地域処遇会議の実施

第Ⅲ期地域別定例研修終了後、地域処遇会議を開催し、今年度の特別研修等に参加した方から報告をいただきました。「被害者の思いに応える更生保護」の話では質問が飛び交っていました。



3. 新任保護司対象研修会の実施

11月15日に事業計画より2か月遅れ、3名の新任保護司の方にご参加いただき、開催しました。関係保護司から地区保護司会の活動やセンター・各専門部・各分区等について説明があった後、先輩・後輩保護司が自由に話し合える時間を取りました。

4. SST研修の実施

SSTとは、Social Skills Trainingの略で、対人関係など社会生活に必要なスキルを学ぶ訓練のことです。今年度は抽選に当たり、研修を開催することができました。参加人数限定もあって、16名の参加でしたが、講師の品田秀樹先生（新潟県長岡地区保護司会副会長）より「面接の基本」を学びました。参加者からは「演習もあって役に立った」との声がありました。

一年間、研修部の活動にご協力いただき、御礼申し上げます。来年度は視察研修も実施する予定です。今後ともよろしく願います。

地域活動部

部長 唐木 洋子

高幡台サポートセンター移転後も、百草台サポートセンターと同様に、植栽を行う予定でしたが、諸々の事情で、植栽の実施が難しくなり年間計画を大幅に変更せざるを得ませんでした。したがって、今年度は地域活動部員のみでの研修会を中心に実施する事に決めました。

①7月11日－サポートセンターにて、地域活動部会後に、立川支部の大竹観察官に來所して頂き、「社会貢献と社会参加活動について」の話伺いました。

その後、社会参加活動の一環として、稲城市の就労継続支援B型事務所「エイトピア工房」の使用している畑の作業の草取りに参加をしました。

②10月7日－社会参加活動として、京王稲城駅の緑のフェンスであるイタビカズラの剪定をいなぎグリーンウェルネス財団・稲城市緑地課の方と行いました。13人の参加者は、汗を流して頑張りました。



③12月13日－日野市に有る社会参加活動受け入れ施設の「工房・夢ふうせん」を11人で訪問・見学しました。施設長の案内で、施設の見学や入所者の作業の様子を見せて頂き、施設で作製しているパンや作品等を購入して帰りました。

④1月18日－「東日本成人矯正医療センター」を訪問しました。訪問時間厳守と言う事で、早めに到着しました。センターは、とても素晴らしく、大きな施設で迷子になりそうなくらい広く、設備は、TVで見るような立派な手術室もあり、安心して治療を受けられる施設で有ることがわかりました。とても有意義な訪問でした。

情報BOX

令和5年度 日野・多摩・稲城地区管内の動向

東京保護観察所立川支部 竹内 研児 主任保護観察官

令和5年版犯罪白書及び新聞報道によれば、刑法犯の認知件数は、平成8年から毎年戦後最多を更新して平成14年に約285万件と戦後最多を記録しましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、平成15年には減少に転じて、以降19年連続減少し、令和3年には約56万件と戦後最少を記録しました。しかし、人々の生活が日常に戻りつつあった令和4年はその揺り戻しにより、約60万件と20年ぶりに増加に転じ、昨年は前年比17%増の約70万件と2年連続で増加しています。

個別の犯罪については、自転車盗やひったくり盗、暴行、傷害など「街頭犯罪」が前年比21%増の24万3995件となり、一方でSNSなどを利用した「非対面型」の犯罪も増加しています。また、殺人や性犯罪などの「重要犯罪」は前年比29.8%増の1万2375件でコロナ禍前の令和2年比でも25%の大幅増となっています。息子や孫を装うオレオレ詐欺などの「特殊詐欺」は認知件数が前年比8.3%増の1万9033件で、被害額も前年より約70億円多い約441億円に達しました。児童虐待事件、配偶者暴力事件、サイバー犯罪、特殊詐欺事件の検挙件数も増加傾向や高止まり状態にあります。

この流れの中で保護観察の動向について述べますと、令和4年末の保護観察を開始した人員は、保護観察処分少年は9,108人で前年より824人減少(前年比8.3%減)し、仮退院者は1,359人で前年より201人減少(前年比7.3%減)し、仮釈放者は10,636人で、前年より194人減少(前年比1.8%減)し、保護観察付執行猶予者は2,893人で前年よりも、408人減少(前年比12.4%減)し、いずれの保護観察についても保護観察開始人員が毎年少しずつではありますが減少していることが明らかです。

令和4年の保護観察係属件数は、1号観察が8,369件で674件減(前年比7.4%減)、2号観察は1,477件で320件減(前年比17.8%減)、3号観察は3,973件で232件減(5.5%減)、4号観察は8,672件で908件減(前年比9.5%減)、保護観察総数は22,511件で前年比2,134件減(8.7%減)で毎年少しずつではありますが、全ての号種の保護観察事件数についても減少していることが分かります。

立川管内でも保護観察事件数は年々減少しており、令和5年末の保護観察係属件数は、642件(更生保護施設分及び1号交通短期保護観察を除く)で、前年比1%、件数にして15件も減少しています。

右表は令和5年末の立川管内及び日野・多摩・

稲城地区の係属事件数と令和5年1年間の受理件数です。

保護観察事件については、地区全体の係属事件数が昨年に続き前年から10件減少しています。分区ごとに見てみると、日野分区が大幅に減少(前年比8件減)しています。多摩分区は微減(同2件減)し、稲城分区は増減はありませんでした。受理件数については、日野分区が1号観察が前年の2倍になった影響で4件増加し、稲城分区も1号観察が3倍になった影響で5件増加しましたが、多摩分区は逆に7件減少して、全体としては受理件数は2件増加しましたが、それ以上に終結事件が多かったため、地区全体の係属事件は前年より減少しています。

生活環境調整事件については、立川支部管内全体としては前年比で200件近く減少してありますが、地区全体の係属件数としては反対に前年より5件増加しています。分区ごとに見てみると、日野分区は前年より4件増加し、多摩分区も2件増加し、逆に稲城分区は1件減少しましたが地区全体としては生活環境調整の事件数は増加傾向にあります。

今後とも保護司の皆様と力を合わせ、犯罪予防活動及び保護観察対象者の改善更生のために尽力したいと思いますので、どうぞよろしくお願います。

【表1】保護観察事件係属件数(令和5年12月末)

	1号 ()内は特定少年内数	2号 ()内は特定少年内数	3号		4号		合計
			全部実刑	一部猶予	全部猶予	一部猶予	
立川支部	278(112)	66(23)	108	6	133	51	642(135)
日野・多摩・稲城	13(6)	3(0)	4	0	13	4	37
日 野	5(3)	1(0)	1	0	6	2	15
多 摩	2(1)	2(0)	2	0	4	2	12
稲 城	6(2)	0(0)	1	0	3	0	10

【表2】保護観察新規受理件数(令和5年1月1日から同年12月31日まで)

	1号 ()内は特定少年内数	2号 ()内は特定少年内数	3号		4号		合計
			全部実刑	一部猶予	全部猶予	一部猶予	
立川支部	282(116)	53(23)	287	26	48	38	734
日野・多摩・稲城	18(5)	2(1)	8	0	6	3	37
日 野	8(4)	0(0)	3	0	2	2	15
多 摩	4(0)	1(0)	2	0	2	1	10
稲 城	6(1)	1(1)	3	0	2	0	12

【表3】生活環境調整事件係属件数(令和5年12月末)

	刑事施設		少年院 ()内は特定少年	合計
	全部実刑	一部猶予		
立川支部	976	30	62(39)	1,068
日野・多摩・稲城	39	2	4(2)	45
日 野	21	1	2(1)	24
多 摩	16	0	0(0)	16
稲 城	2	1	2(1)	5

新任のご挨拶

ご活躍を期待します

令和6年2月1日委嘱



稲城分区 ^{かわさきたくま}川崎琢磨 (研修部)

皆様初めまして、この度二月一日付で保護司の仲間入りをさせていただきました。稲城市在住川崎琢磨と申します。理解していないことが多々ありますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

初めて保護司にお誘いをいただいたのは、5年ほど前になります。

仕事や他の活動を理由にお断りをしていましたが、定期的にお声がけをいただき今に至ります。職業柄、色々な方とコミュニケーションを取るの好きな方です。保護司の活動は、寄り添いながら、自分の糧にもなるよう努めていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

退任者のご紹介

ご苦勞様でした

西川 毅氏 (稲城分区)

任命：2007年5月15日

退任：2023年11月30日 (在任：16年)

平成27年～平成28年 サポートセンター長

山口慶隆氏 (日野分区)

任命：2017年9月17日

退任：2023年12月31日 (在任：6年)

表紙写真の説明

— 稲城市立学校給食共同調理場 —

稲城市立学校給食共同調理場第一調理場は、昭和46年から稼働していた旧第一調理場の老朽化に伴い移転を進め、令和2年9月に完成し、令和3年4月から本格稼働となりました。

この第一調理場は、最新の衛生管理基準に対応し、一日最大6,500食の調理能力に加え、一日100食の食物アレルギー対応食を提供できる専用の調理室や災害時に炊き出し対応ができる炊飯設備を備えています。さらに、3階の会議室では調理工程の見学や、エアシャワーや調理釜などを体験できるスペースもあります。

退任保護司のご挨拶



芦川 正雄 (稲城分区)

任命：2002年2月1日

退任：2024年1月31日

(在任：22年)

少しは社会の役に立ちたいと思不安は有ったが保護司を引き受けました。

保護司にも対象者にも「有るべき姿」が有ると考え皆に同じような気持ちで対応していました。

予定を守らない人、街で会うと気軽に挨拶をしてくれる人、様々な個性を持った対象者との対応は満足に出来ていない事も有ったのが反省する点でした。私が地域で保護司を依頼しに行った時、即座に断られる事がほとんどでした。これからは保護司候補者検討協議会に期待しています。



馬場 房義 (稲城分区)

任命：2010年2月1日

退任：2024年1月31日

(在任：14年)

この度14年間の保護司活動を満期退任いたしました。思い返せば保護司を拝命する際、対象者と信頼関係を築けるのか等の不安もありましたが、何とか勤め上げることができましたのも、先輩方のご指導の下、多くの関係者の皆様に支えて頂いた結果であるというほかありません。保護司になったことで出会えた方々、教えて頂いたことや様々な活動も私の人生の宝物です。心より感謝申し上げます。

最後に当地区保護司会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げ退任の挨拶といたします。ありがとうございました。

編集後記

広報部三役が全員初心者の中、広報部再任のベテラン部員の方々のアドバイスを受けながら、今年度3回目の会報を発行することができました。

部会に参加して下さった部員の皆様、忙しい中にもかかわらず寄稿して下さった皆様に御礼申し上げます。

来年度の会報が、さらに良いものになるよう広報部一同、努力する所存です。

■ サポートセンター高幡台

〒191-0042

日野市程久保550番地

電話 042-593-0950 FAX 042-506-5474

メールアドレス：vpocentormog@true.ocn.ne.jp